

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月10日

協議会名:安曇野市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
南安タクシー有限会社 安曇観光タクシー株式会社 明科第一交通株式会社 株式会社バイタル	「あづみん」区域運行 地域間幹線系統路線に接続する デマンド交通を9系統運行する	平成30年6月に市地域公共交通網形成計画を策定し、計画策定過程において実施したアンケートや利用状況分析から、予約断りの減少や利便性の向上などを目的とする運行見直しを検討した。 これらを平成30年10月から開始したため、本事業年度内は変更内容の周知を行うとともに、効果を検証するため、予約断り件数の推移を調査している。	A 計画どおり運行できた。	C 総合連携計画での目標値は、「1日平均利用者数:420人、年間利用者数:102,060人」であるが、利用者数は平成24年度をピークに減少傾向である。 今年度の実績は「1日平均利用者数:349.5人、年間利用者数:85,287人」であった。なお、昨年度は「1日平均利用者数:351.5人、年間利用者数:85,759人」であったため、利用者数は微減している。	網形成計画に基づき、市内5地域のサービスの平準化や、予約断り件数の減少などに対応する運行見直しを平成30年10月に開始したため、今後はこの検証を行いたい。 また、同計画において利用者数について新たな目標値を設定しているため、この目標を達成できるよう利用者の増加を図りたい。 (平成34年度に達成を目指す目標値「年間利用者数:88,000人、実利用者数:3,430人」)

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月10日

協議会名：	安曇野市地域公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>安曇野市は長野県中央部西側に位置し、人口は約9万8千人、面積は約332km²で、平成17年10月に5町村が対等合併して誕生した市である。北アルプスの山岳地帯と山間部、及び平たん部から構成されている。全国の多くの自治体と同様に本市でも高齢化が進んでおり、特に山間部などで高齢化が顕著となっている。</p> <p>当協議会では、本市の地域性を踏まえ、市全域でデマンド型乗合タクシー「あづみん」(以下「あづみん」と言う。)の運行を行っており、日中は高齢者・障がい者を中心として医療機関等への通院や買い物、福祉施設への移動手段を確保している。また、その運行前後の時間帯には、市外へ至る重要な公共交通であるJRの2路線間を結ぶ定時定路線により、通勤・通学者の移動の確保を図っており、生活交通ネットワークを構築しているところである。</p> <p>当市では、平成30年6月に市地域公共交通網形成計画を策定し、引き続き「あづみん」を中心とした日中の生活交通の維持・充実を図るとともに、朝夕の通勤・通学移動の充実を検討しており、特に「あづみん」については、本年10月から若干の運行見直しを行い、利用者の利便性向上や予約の断りを減らすことに取り組んでいる。なお、「あづみん」は高齢者、障がい者をはじめとした交通弱者の足として定着しているが、利用者は減少傾向であるため、ドアツードアというサービスレベルの高さを周知して、利用者増加に向けた取り組みを行い、持続可能な交通体系の維持・確保につなげたい。</p>

